



平成 24 年 11 月 7 日

報道機関各位

熊本大学

熊本大学大学院 自然科学研究科 附属減災型社会システム実践研究教育センターの設置と文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」の採択について

内容等

1) 熊本大学大学院 自然科学研究科 附属減災型社会システム実践研究教育センターの設置の理念、目的

減災型の地域社会を実現し、地域の安全・安心を持続的に確保するためには、減災型社会に対する問題発見・解決型の人財を継続的に輩出し、積極的に地域貢献を行なうことが今まさに地域の大学に期待されている。熊本大学が社会の要請に応えるとともに、新しい減災イノベーションの創出に貢献を果たすために、「減災型地域社会の創生に向けた地域の知の拠点 (Center of Community : COC)の構築」というミッションを掲げて、次代に展開する研究教育基盤として「減災型社会システム実践研究教育センター」(以下「センター」という。)を自然科学研究科に附置するものである。本センターの設置により、特色ある地域の知の拠点 (COC)を持つ研究大学としてのブランド力向上に貢献する。

詳細は添付資料参照

2) 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」

取組名称：減災型地域社会のリーダー養成プログラム

取組大学：熊本大学 (代表校)、熊本県立大学、熊本学園大学、熊本保健科学大学

選定取組の概要

平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業で選定された「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」は、熊本市内の国公私 の 4 大学がそれぞれの教育資源を活かした連携により、「減災型地域社会の創生に向けた地域の知の拠点」を全国に先駆けて実施する取り組みである。少子高齢化が進む中、減災型地域社会の継続的な実現に向け地域にある大学に求められる教育は、能動的学修能力と実践力を兼ね備えた人財の育成である。そのためには、実際の地域の課題を行政や住民等との協働作業を通して能動的学修力を体得する実践教育の場作りが必要である。具体的な取り組みは、1) 減災型地域社会をテーマとした共同学修プログラム構築、2) 単位互換・地域運営協議会・e ポートフォリオを活用した教育の質保証、3) リーダー認定制度創設である。本事業を通じて、地域にある大学が率先して協働し、継続性のある地域活性化へとつながることが期待できる。

詳細は添付資料参照

熊本大学大学院 自然科学研究科
担当：山田
電話：096-342-3546
e-mail：yamada@kumamoto-u.ac.jp

安全・安心な地域社会創生に向けた地域の知の拠点

熊本大学は地域と連携し、未来を担う“減災まちづくりリーダー”を育成します。

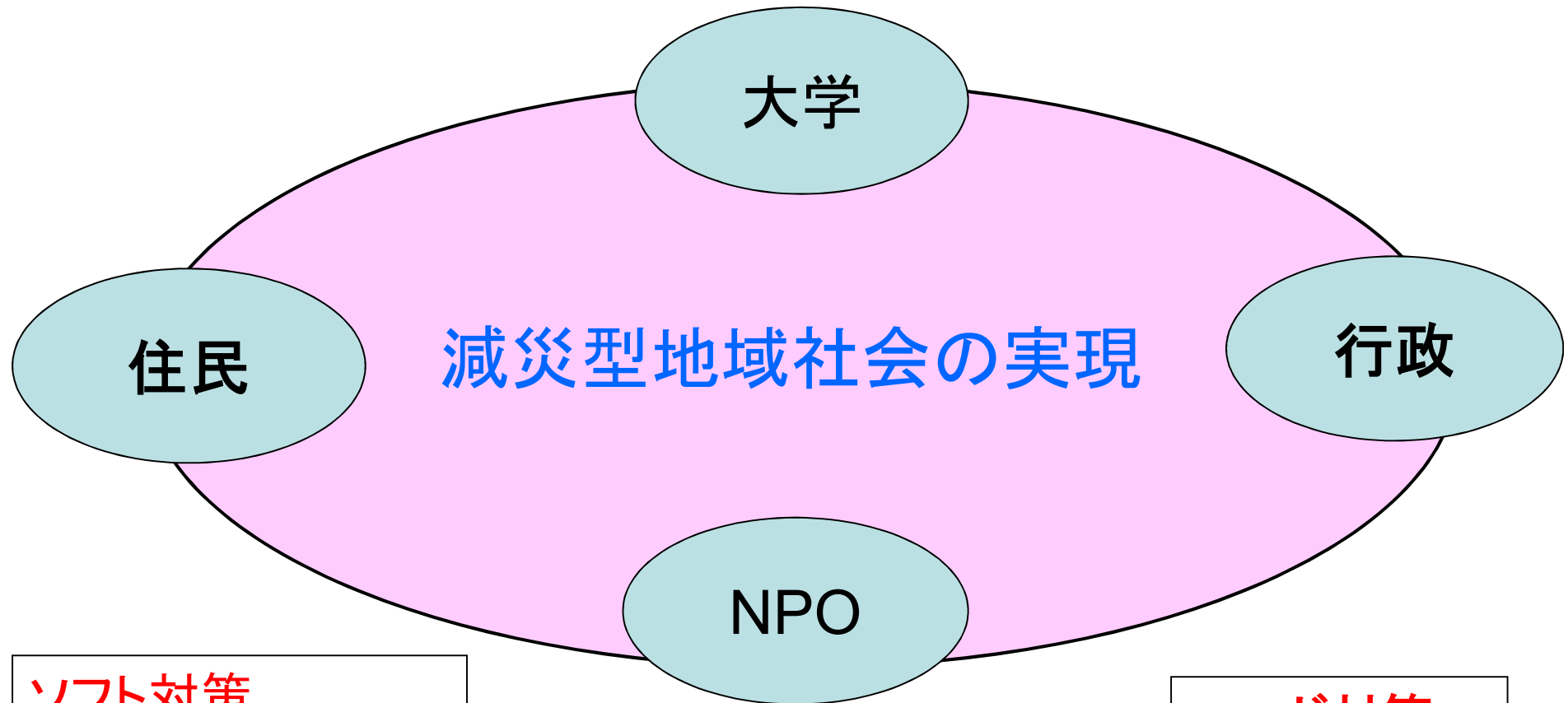


熊本大学工学部の学生が主体的に運営組織する
学生災害復旧支援団体「熊助組」

平成24年度 文部科学省
大学間連携共同教育推
進事業「**減災型地域社会
のリーダー養成プログラ
ム**」に採択されました(代
表校)。

“**減災型社会システム実
践研究教育センター**”を
設置し、地域のステーク
ホルダーとの積極的な協
働により、着実に人材育
成を推進します。

地域の中核となる大学が住民と行政の架け橋となり 減災型地域社会を実現



ソフト対策

ハザードマップ

避難場所・避難経路

リスクコミュニケーション

自助・共助・公助の役割

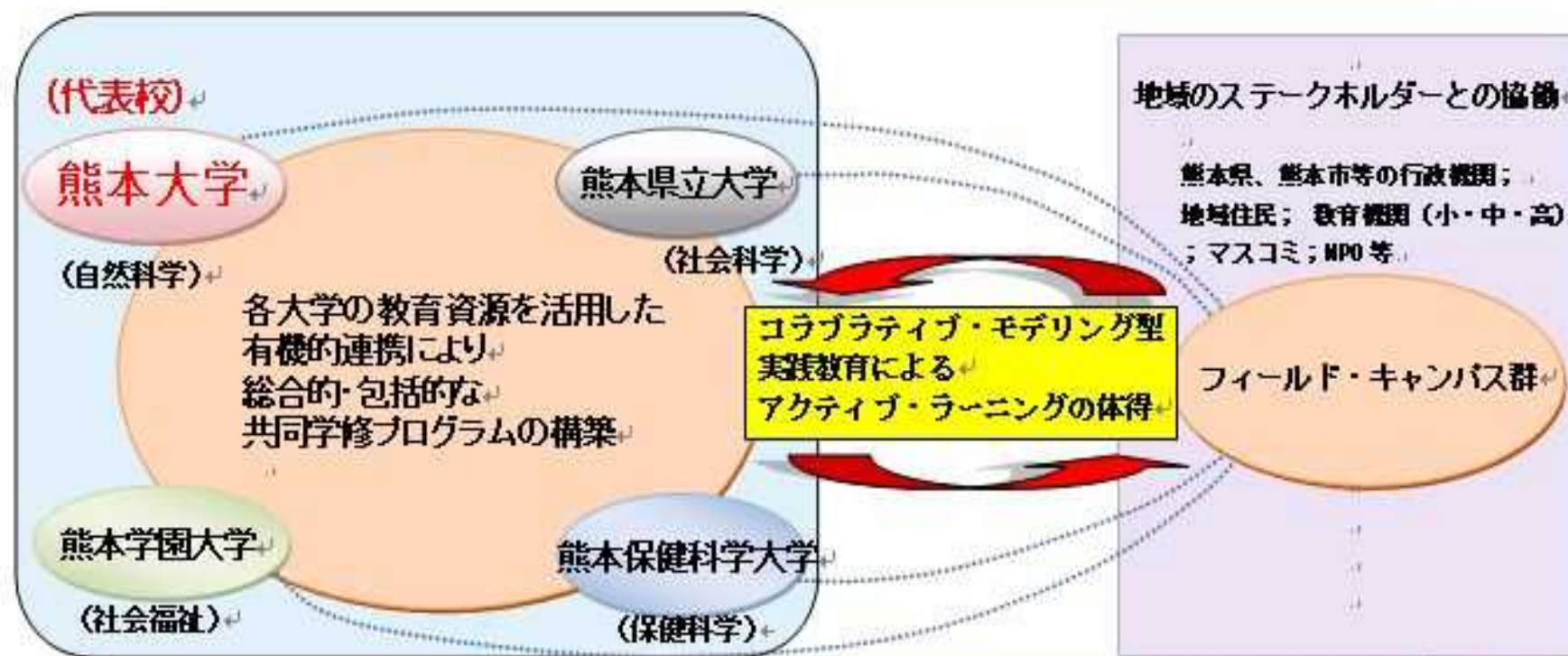
ハード対策

堤防等の建設

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業(平成 24~28 年度)

代表校:熊本大学 連携校:熊本県立大学;熊本学園大学;熊本保健科学大学

減災型地域社会のリーダー育成プログラム



減災型地域社会の創生に向けた知の拠点
大学の垣根を超えた共同教育実践の場(フレーム)作り

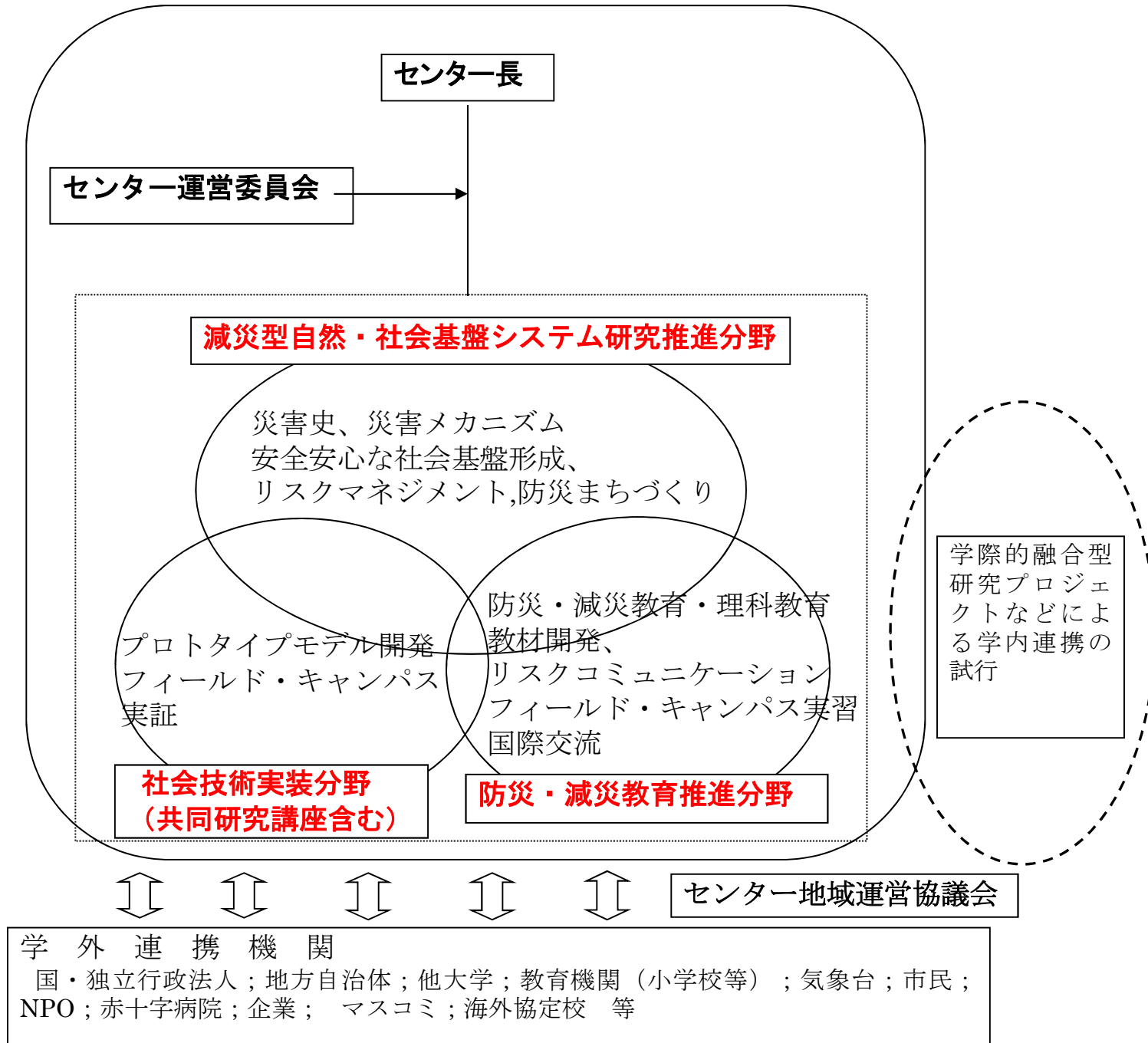
- 熊本市内の国公私の4大学がそれぞれ教育資源を活かした有機的連携により、「減災型地域社会の創生に向けた地域の拠点: Center of Community (COC) 構想」実現に向けた具体的な共同教育実践の場(フレーム)となる熊本ケース・ステーション=フィールド・キャンパス (CASiFiCA-KUMAMOTO)を全国に先駆けて構築する。
- それぞれの大学が地域のステークホルダーと協働しながらこれまでに構築してきた地域内の調査フィールドを共通のフィールド・キャンパス群と位置づけ,学生から社会人を含め双方向・コラボラティブ・モデリング型実践教育による能動的学修を体感する。
- 少子高齢化・知識基盤社会における減災型地域社会構築とその実践リーダー育成を4大学が協力し,地域への貢献の役割を果たす。

熊本大学大学院 自然科学研究科
附属減災型社会システム実践研究教育センター

*Implementation Research and Education System Center
for Reducing Disaster Risk (IRESC)*

減災型の地域社会を持続的に実現するために、
基礎から実践までをつなげることを目的とした幅
広い防災・減災に関する研究を推進する。

また、これまでに構築した学外地域（フィールド）
を、研究成果を社会技術として実装させる実践
の場（フィールド・キャンパス）とし、減災型社会
システムの構築に資する人材の育成を図る。



センター人員構成

専任教員

岡田憲夫	教授	センター長
山田文彦	教授	社会技術実装分野長
中條壮大	助教	

併任教員

松田博貴	教授	防災・減災教育推進分野長
柿本竜治	教授	減災型自然・社会基盤 システム研究推進分野
藤見俊夫	助教	

①減災型自然・社会基盤システム研究推進分野:

自然環境変動研究グループ: 災害史, 地圏環境変動分野, 気・水圏環境変動分野

複合災害研究グループ: 災害メカニズム, 災害リスクコミュニケーション,
総合防災計画分野

地域安全研究グループ: 社会基盤・施設設計, 危機管理・災害復興計画分野,
災害情報通信分野

②社会技術実装分野:(共同研究講座含む)

社会実装のためのプロトタイプモデルの開発とフィールド・キャンパスでの実証実験
熊本大学共同研究講座制度を活用し, 国・県・市町村, 企業との人材交流・連携強化
学内関連部局および地域コミュニティとの連携強化

③防災・減災教育推進分野:

小・中学校と連携した防災・減災教育プログラムおよび教材の開発

リスクコミュニケーションのプロトタイプモデル開発とフィールド・キャンパス実証実験
国際的防災研究機関との教員・学生交流(交流協定)